

平成22年度 遠州大名行列物語

霊犬悉平太郎七〇〇年祭

信州と遠州をつなぐ悉平太郎の場

信濃守さまが東海道を江戸より国元へ帰る途中見付宿にご宿泊されることとなった。本来ならば中山道をお通りになられるところ、この日は、見付宿でこの藩侯と親しい遠江守さまとのご会見が予定されていたため、特別に幕府の許可をお取りになったの回り道であった。

話は鎌倉時代以前にさかのぼるが、見付宿では人身御供の恐ろしい慣習があり、若く美しい女性が毎年ひとり生け贄とされた。それを要求していたのは神様ではなく「ひひ」であり、それを退治したのが信濃の国の悉平太郎という犬であったと言い伝えられていた。その為、見付の人々はその恩を忘れることなく、信濃守さまへも特別親愛の情を示し、歓迎の準備が進められていた。特に、お出迎えのために掛塚の道囃子が待機して、ご到着をお待ち申し上げていた。

見付宿の古老達は、この機会に悉平太郎の偉業を再現させ、両藩侯にご高覧賜ることにし、解説には講談師が江戸から招かれるという熱の入れようであった。

今年は、悉平太郎七百年祭にあたり、長野県駒ヶ根市より市長さまがおみえ下さり藩侯としてご出演下さっております。

というわけで、悉平太郎物語のはじまり、はじまり。